

- ・夏の風物詩「打上げ花火」と「水不足」
- ・幸を呼び、幸が来る～盛岡さんさ踊り～
- ・R7年度「21UK会」現地研修会

夏の風物詩「打上げ花火」と「水不足」

夏の風物詩の「打上げ花火」が、全国各地で夜空を輝かせている。今年は「隅田川の花火大会」が7月26日に開催され、主催者発表で約93万人の方々が約2万発の花火に酔いしれた。全国的に有名になった長岡の花火大会は昭和20年8月1日の空襲により焼け野原になった長岡の復興を願い、また空襲で亡くなられた方々への慰霊、恒久平和などの想いを込め昭和22年に始まった。

一方、8月4日横浜の花火大会では事故が発生し中止となった。華やかさと危険が隣合せの花火大会であることを思い知らされた。

江戸時代の「花火」は木炭が燃える際に放つオレンジ色が主であった。明治時代になり、金属の「炎色反応」を利用し様々な美しい色を放つ花火が見られるようになった。「花火」の「炎色反応」は特定の金属が特定の色を発色して燃えることを利用している。

例えば「リチウム」や「ストロンチウム」は深い赤色（紅色）を発色し、「ナトリウム」は黄色、「カリウム」は紫色。「銅」は青緑色、「カルシウム」はオレンジ色など、肥料でもなじみのある物質が花火にも利用されている。これらの異なる金属を何層にも配合した「火薬」を使い、「花火師」の方達が丁寧に作った「花火」を安全に打上げて我々の目を楽しませてくれている。

「花火」を楽しむ夏であるが、今年の夏は「短い梅雨」の影響で日本海側では「水不足」の地域もあり、かなり深刻だ。「猛暑」と「水不足」のダブルパンチを被った「作物」には過酷な夏であり、「生産者」も打ち手がないと嘆いている。適度な「降雨」が続くことが待ち望まれる、とこの記事を書いていた矢先に九州・中国・四国・北陸で局地的に大雨が降り、田んぼや畑が水没している映像を見ると「気ままな天候」に振り回されている農業の大変さを改めて感じる。

「水不足」で枯れていく作物や大雨で水没した田畑のニュースを見る場面が増え、また収穫物の良品率も悪く農産物価格の上昇を招いている。消費者にとっては「米」だけでなく「野菜・果樹」の高騰もボディブローのように懐に効いてくる。昨年はいつまでも暑さが続き「苗」がダメージを受け秋～冬の「野菜」の価格が高騰した。今年もその二の舞は避けたいところだ。

「雨を避けたい」花火大会と適度な「降雨」を願う生産者、相反する願いではあるが、「食料」のことを考えると、「花火大会」関係者には申し訳ないが、水を欲する地域には豪雨被害にならない適度な「雨」が降って欲しいと願うばかりだ。

「ため池に給水車」がトレンドの1位になり賛否両論ある。実際このような給水活動は目新しいことではないようだ。浸透膜を利用して海水を真水にかえるタンカーを政府が保有するなどのユニークな考えがあっても良いのではと思う。活躍の場は色々ある。



～幸を呼び、幸が来るー盛岡さんさ踊りー～

8月1日～4日の4日間、盛岡の夏を彩る一大イベント「盛岡さんさ踊り」に参加してきました。沿道から見るのは何度か経験がありましたが、踊り手としての参加は今回が初めて。忘れられない夏となりました。

太鼓、笛、踊り手が列を成し、盛岡市内の路上を踊り歩く現在のパレード形式の「盛岡さんさ踊り」は、2025年で48回目を迎えます。「和太鼓演奏世界一」としてギネスブックにも認定されており、4日間の参加人数は延べ2万5千人（205団体）、平均観客数は約30万人（延べ110万5千人）。気温の高さもさることながら、街は人々の熱気に包まれていました。

さんさ踊りの起源は「三ツ石伝説」に由来します。昔、南部盛岡城下に鬼が現れ、悪さを繰り返していました。困り果てた里人たちは神社の神様に鬼退治を祈願し、その願いを聞き入れた神様は鬼を捕らえます。そして二度と悪さをしない証として、境内の大きな石に鬼の手形を押させました（岩に手形＝岩手）。鬼退治を喜んだ里人たちが「さんささんさ」と踊ったのが、さんさ踊りの始まりと言われています（諸説あり）。

掛け声の「サッコラ チョイワヤッセ」に含まれる「サッコラ」は、漢字で「幸呼来」と書きます。「幸せを呼び、幸せが来る」ことを願い、太鼓の音と共にその掛け声が街中に響き渡ります。色とりどりの衣装、出番前の高揚感、力強い太鼓と笛、そして「サッコラ チョイワヤッセ」の掛け声。仲間とリズムを合わせ、夢中で踊り歩いた30分間。終盤は腕も脚も重くなり、浴衣の色が変わるほどの汗。それでもいつまでも踊れそうな一体感と達成感に包まれ、息は上がっていても笑顔は止まりませんでした。

パレード後には、参加者も観客も入り混じって輪になって踊る「輪踊り」が行われます。列の踊りとは違い、誰もが自由に踊り、年齢も団体も関係なく、ただ楽しむひととき。終わった後のお酒の味は格別でした。

来年もまた、楽しくさんさ踊りが踊れますように。（東京支店）



～R7年度「21UK会」現地研修会～

2025年7月29日（火）～30日（水）、山形県山形市にて「21UK会」現地研修会が開催され、総勢41名が参加した。初日は水稲・ネギ等の圃場視察を実施。水稲ではSOX（スーパーオキサミド）・UF（ウレアホルム）入り試作品の施用効果を確認し、草丈や茎数、SPAD（葉色）値などからノンコート肥料の有効性が示された。キャベツ・ネギではオキサパワー施用区が対照区と比較し同等乃至は良好な生育を見せ、根張り（根量）の良さを確認する事ができた。

2日目は座学にて、初日視察した各圃場の概要説明、オキサミドの特長や参加された各特約店の地域における農業情勢・販売状況が報告された。また、ノンコート肥料の普及に向けた試作品の開発や価格面の課題、オキサミドの価格面についても引き続き検討を行っている事の共有がなされた。MCFCアグリチャンネルの紹介もされ、YouTubeにて動画配信されているのでまだ見た事がないようであれば是非視聴していただきたい。チラシ等にQRコードの掲載を検討されておりましたらMCFCへお問い合わせさせていただきたく思います。この度の現地研修会設営にあたりご尽力ご協力いただきました山米商事株式会社の皆様に紙面お借りして心より感謝申し上げます。

（東京支店）



まだまだ初めて聞くお祭りがたくさんありますね。地元のお祭りで踊っていたのは「八木節」でした。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511／E-mail：macjournal@mcagri.co.jp

URL <http://www.mcagri.jp>